

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

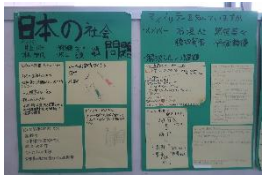
氏名	須賀与恵	学校名	埼玉県川口市立小谷場中学校
担当教科等	総合的な学習	対象学年（人数）	1 学年（90名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2020 年 8 月 ～ 2021 年 2 月（10時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：総合的な学習・キャリア教育		
2. 単元(活動)名：仕事で解決！日本の社会問題		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：職業「職業の選択と社会への貢献」  単元目標：①どのような職業があるのかどのような働き方があるのかを知る。 ②「働く」とはどういうことか」を理解する。 ③自分はどのような働き方をしていきたいか考える。  関連する学習指導要領上の目標： 探求的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	社会にはどのような職業があるのかを知る。 自分の必要な情報を適切に入手し、整理する。
	②思考力、判断力、 表現力等	社会にはどのような課題があり、それがほかの課題とどのように繋がっているのかを考察する。 自分が調べたものを、新聞やポスターにまとめたり、わかりやすく人に伝えたりすることができる。
	③学びに向かう力、 人間性等	自分の興味のある課題を見つけ、その解決に向けてどのような仕事でどのように解決することができるか、グループで協働的に考察する。

<p>5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p><b>【単元設定の理由】</b></p> <p>本校1学年の総合的な学習の主なテーマは、「環境教育」と「キャリア教育」である。「キャリア教育」では、例年、「身近な職業調べ」から始まり、学校付近の事業所に訪問して3日間の「職業体験」を行ってきた。しかし、今年度はコロナ禍の影響で、体験活動が中止となり、例年通りの活動が制限されてしまった。また、調べ学習をして体験活動をするという、ただこなすだけのような活動で終わってほしくないという願いがあった。そのことから、将来就く職業が自分の生き方そのものにつながることで、そして、仕事を通して社会とどのようにかかわっていくか、貢献していくかを実感してもらいたいと思い、「職業」と「身近な社会問題」を関連付けて、本単元を設定した。</p> <p><b>【単元の意義】</b></p> <p>本単元では「身近な社会問題」を「仕事」を通してどのように解決するのかを探求する学習活動である。働くことが「社会への貢献」とどのように繋がっているかを理解することで、将来の自分の生き方を考える機会となる。このような学習活動を通して、自分の進路を考えたり、得意なことを生かしたりしようとする態度を養うことにつながる。と考える。</p> <p><b>【児童/生徒観】</b></p> <p>本学年の生徒たちは、生活面で非常に落ち着いており、学習にも前向きに取り組んでいる。仲間同士の関係も良好であり、話し合い活動は活発に行うことができる。また、問いかけ次第で、興味を持ったものは自ら進んで調べたり、まとめたりする生徒もいる。しかし、自ら日本の社会問題に対して興味を持ち、進んで調べたり自ら行動を起こそうとしたりする生徒はほとんどいない。新聞をとっている家庭が非常に少なく、世の中のニュースなどの情報は、テレビやネットのニュースから入手しているようだ。生徒それぞれで、興味のある社会問題は異なるため、お互いに調べてきたものを授業内で共有することで、個人の考えを広げたり、深めたりしていくことができる。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>本単元に入る事前指導として、まずは身近な課題に目を向けるために、「川口の社会問題」を調べて新聞にまとめる活動を行う。そこから、日本全体でも同じような課題があることに気付かせ、問題が起きる原因やその解決策を調べることで、いくつかの事例を収集する。その事例をもとにして、身近な課題の解決に戻り、自分たちには何ができるのかを考えさせる。</p> <p>指導に当たっては情報を収集する際、元となる情報がどこから集めるか、集めた情報をまとめる際に、どのような項目で整理すればよいかなどの手だてを重点的に指導する。また、個人で行う作業と、グループで協働的に学ぶ時間を明確に分けて、学びを広げたり、深めたりなど、できる限り生徒一人一人の個性が発揮できるように配慮しながら指導していく。</p>
--	---

6. 単元計画 (全10時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>「職業」に関する学習の流れを把握する。</li> <li>解決したい日本の課題を1つ決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「働く理由」について考える</li> <li>身近な課題を想起し、日本の社会問題にはどのようなものがあるのかを知る。</li> <li>解決したい日本の社会問題を1つ決める。</li> <li>「未来の授業 私たちのSDGs探求BOOK」を参考にして、31個の課題の中から自分が一番興味のあるものを1つ選ぶ。</li> <li>資料をもとにして、次の事柄について、レポートにまとめる。項目は次の通り             <ol style="list-style-type: none"> <li>①どんな場面でその問題が起きているか</li> <li>②なぜその問題が起きているか(原因)</li> <li>③どんな解決策があるか</li> </ol> </li> </ul>	<p>「未来の授業 私たちのSDGs探求BOOK」</p> <p>「課題解決中マップ 2020 and beyond」</p> <p><a href="https://2020.etic.or.jp/">https://2020.etic.or.jp/</a></p> <p>環境やSDGsについて考えるページ</p> <p>「持続可能な社会へ地球のミライは私たちの手に」</p> <p><a href="https://www.nhk.or.jp/gendai/comment/0008/">https://www.nhk.or.jp/gendai/comment/0008/</a></p>

2	課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人で調べたことをグループで共有し、考えを広げる。</li> <li>今後、さらに深く調べていくものをチームで決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べてきたことをグループ（生活班）で共有する。</li> <li>同じ課題や似たような課題を選んだ生徒同士で3～4人を基本としたチームをつくる。</li> <li>チームに分かれて改めて解決したい課題は何かを決める。</li> <li>選んだ課題をもとにしたチーム名を決める。</li> <li>チームで決めた課題について、どのような職業でどのように解決できそうか、次回までに調べてくる。</li> </ul>	
3	解決策の考察 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんな職業で課題を解決するか調べ、考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのような職業で、どのように解決できるか考察する。</li> <li>地域の図書館で借りた職業に関する本を用いて、課題を解決できそうな職業を調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>川口中央図書館から借りた職業に関する資料50冊</li> </ul>
4	途中経過をまとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで調べてきたものを整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を振り返って、チームで調べたこと、わかったことをポスターにまとめる。項目は以下の通り ①どんな課題があるか ②課題が起きる原因 ③どんな職業で解決するか ④どのように解決するか</li> </ul>	
5	途中経過発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで調べてきたものをチーム同士で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各チームがどのようなことを調べているか、調べた結果わかったことをポスターセッション形式で共有する。</li> </ul>	
6, 7	出前授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師の話聞き、新たな視点を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JICA 協力隊経験者3名を招いた出前授業</li> <li>チーム内でどの講師の話聞くか決め、3つの教室に分かれて、それぞれの授業を受ける。</li> <li>講師の先生方の職業観や、仕事を通して社会にどのように貢献しているかの話聞き、新たな視点を得る。</li> <li>講師の先生の授業の中で、自分たちが今調べている課題について、解決のためのアイデアを得たり、疑問を解消したりする。</li> </ul>	
8, 9	出前授業ふりかえりまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>出前授業で聞いた話をチーム内で共有する。</li> <li>職業に関する学習のまとめ新聞を作成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チーム内で3つの教室に分かれて授業を受けているため、それぞれの教室でどのような話を聞いたか、どんなことを学んだか共有する。</li> <li>職業に関する学習をふりかえって、新聞にまとめる。(個人)</li> </ul>	
10	まとめ新聞発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人で新聞にまとめたものを発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業に関する学習のまとめ新聞を発表する。</li> </ul>	

7. 本時の展開（3時間目）			
本時のねらい：職業を通して課題を解決するにはどうすればよいか考えよう。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料（教材）
<b>導入</b> (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本日のめあてを確認する</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">           職業を通して課題を解決するにはどうすればよいか考えよう。         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>チームで決めた課題の確認</li> </ul>		川口中央図書館から借りた、職業に関する資料やSDGsに関する資料。50冊
<b>展開</b> (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームのメンバーが調べてきたことを共有する。①どんな職業で ②どのように解決できそうか。</li> <li>チームで決めた課題について、その問題が起これば、ほかにどんな問題が起きるか考察する。</li> <li>資料をもとに、さらにどんな職業でどのように解決できそうか調べる。</li> </ul>	チームで選んだ課題がほかのどのような問題とつながっているか意識できるように問いかけをする。	
<b>まとめ</b> (15分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を整理する。               <ol style="list-style-type: none"> <li>①どんな問題が起きているか</li> <li>②その問題が起きている原因</li> <li>③どんな職業で解決するか</li> <li>④どのように解決するか</li> </ol> </li> <li>次回は、チームで調べたものや考察したものをポスターにまとめる。</li> </ul>		
<b>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</b>			
<b>【知識及び技能】</b> 社会にはどのような職業があるのかを知る。(ワークシート) 自分の必要な情報を適切に入手し、整理する。(選んだ資料)			
<b>【思考力・判断力・表現力】</b> 社会にはどのような課題があり、それがほかの課題とどのように繋がっているのかを考察する。(ワークシート)			
<b>【学びに向かう力、人間性】</b> 課題の解決に向けてどのような仕事でどのように解決することができるか、グループで協働的に考察する。(話し合い活動)			

<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できる限り、生徒が興味を持った日本の課題について各自で調べさせたり、同じような課題に興味を持った生徒同士でチームを作り学習を進めさせたりした。</li> <li>・私自身は全体計画とチーム編成や外部との連携に務め、細やかな授業の進行などは、各担任の先生方に協力していただいた、</li> <li>・川口市内にある中央図書館を利用して、職業に関する資料 50 冊を借りた。</li> <li>・昨年度 JICA 教師海外研修で知り合った 3 名の方に、出前授業をお願いした。 ①どのような思いで働いているか ②日本や世界にある、どんな社会問題と、どのように向き合っているか について重点的に話をしていただいた。 また、3 名のどの先生の話聞くかチーム内で分かれて聞くことで、1つの課題を解決するための様々なアイデアを得られるようにした。</li> </ul>
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JICA エッセイコンテストへの参加（国際協力特別賞受賞）</li> <li>・学年の廊下に SDGs や国際理解教育に関する資料を自由に閲覧できるコーナーを設置した。中央図書館から借りた資料も、授業時間以外でも閲覧できるように展示した。</li> <li>・教師海外研修で知り合った先生の学校の生徒たちと、放課後オンラインでつなぎ、SDGs に関する知見や意見交換を行った。</li> </ul>

【自己評価】

<p>11. 苦労した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習を行うための資料やインターネットが使える機器を生徒数分揃えるところが苦労した。今となっては GIGA スクール計画が進み、一人一台のタブレットが配布されているが、一斉に使うと回線がダウンしたりするなどの問題もあった。</li> <li>・コロナ禍の影響で、出前授業をお願いしていた 3 名のうち 1 名が急遽来校できなくなり、オンラインで対応をした。授業は遂行できたが、やはりほかのクラスに比べて、臨場感が足りなかったり、予定していた以上に時間がかかってしまったりした。生徒にとっては、オンラインでの授業は新鮮味があって意欲的に取り組んでいたように思える。</li> </ul>
<p>12. 改善点</p>	<p>本単元の導入で、「川口の社会問題」について調べる活動を行った。ふりかえってみると、社会問題から入る導入では、マイナスのイメージから地域の事柄について学習を進めることとなり、あまりいい印象ではなくなってしまう。次回このような学習を進める際は、まず「川口の魅力発見」と「その裏に潜む影」など、ポジティブな面とネガティブな面を同時に調べる活動を取り入れると、より前向きに、楽しく学習ができるのではないかと思う。</p>
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>生徒の多くは、これまで日本や世界の社会問題を意識して調べたりする活動を行ってこなかったため、改めて調べてみると、意外と課題がたくさんあることや、そのほかの多くの課題とつながっていることを実感できたという感想が多かった。まずは知ることを通して自分の行動を見直してみたり、家族やほかの友人に話をしてみたりするうちに、少しずつ自分の生活に変化が現れたという生徒が多くみられた。</p>

<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>どんな学びがあったか、自分が考えたこと、これから調べてみたいこと</p> <p>今、世界じろさしいろいろ問題を職業で解決できるのはいいなと思っ。仕事や職業について、あま深く考えることはいいから、いい。それらはや、ばり、人のため、物のためにあるものなんだからあらためて思っ。これなら、SDGsの課題を解決できる仕事、職業があるに、してらるかもいいなと思っ。</p>
	<p>どんな学びがあったか、自分が考えたこと、これから調べてみたいこと</p> <p>今のストレスや、社会問題は、職業で解決できるんだと分かった。だから、自分が働けるようになったら、自分に合う楽しい職業をえらんでみたいと思っ。</p> <p>もしストレスかたまたま少し助けになる職業があるて、とても今後役に立つと分かった。</p>
	<p>どんな学びがあったか、自分が考えたこと、これから調べてみたいこと</p> <p>日本の社会問題を解決する職業について考えるために働いている人に出前授業で話を聞いたりして、テレビのようにオブラトに包まないリアルな現状を知ることができて面白かった。またそれをまとめたときにそれぞれ当てるスポットライトの場所が違って「こんなことをたん」「こんなことをいた者」と上手く穴うめ方式で意見交換できて深く理解することができた。今回の学習で調べた社会問題以外も調べてまとめてみたい。</p>
	<p>どんな学びがあったか、自分が考えたこと、これから調べてみたいこと</p> <p>物事を様々な観点からとらえて考える良い機会になった。私は「地震」への浅かった認識を深め、職業を通して何か出来るか、非常に楽しかったが調べ上げてまとめることができた。身近な事に疑問を感じて調べ、さらに深めたい時、様々な方法があることを知り、これまた自分の中の選択を増やすことに貢献したと感ずる。</p>
<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>今年度は、コロナ禍の影響で例年通りの学習が進められず、計画を立てたとしてもその通りに進められないことが多かった。しかし、教師海外研修に参加した先生方に、本単元の計画を相談したり、オンラインで外部とつないだりするなど協力していただくことで、本校の教員にも少しずつ新しい取り組みに挑戦しようとする姿勢の変化が見られた。単元の計画や具体的な教育方針を決める際は、勤務校の先生方とよく話し合うことが一番大切ではあるが、他校の先生方（特にほかの地域の先生方）に相談することで、異なる視点や新しいアイデアがたくさん出てくる喜びを実感できた。今後も、本研修に参加した先生方とのつながりを大切に、柔軟な視点を取り入れながら、自分にできる最善の教育活動を行っていこうと思う。</p>

参考資料：

- ・「未来の授業 私たちのSDGs探求BOOK」佐藤真久（監修）NPO法人ETIC（編集）
- ・「課題解決中マップ 2020 and beyond」 <https://2020.etic.or.jp/>
- ・環境やSDGsについて考えるページ「持続可能な社会へ 地球のミライは私たちの手に」  
<https://www.nhk.or.jp/gendai/comment/0008/>